

安古木

別3  
10

WA 7  
35

安古木 1冊 WA 7-35 00-001

国立国会図書館





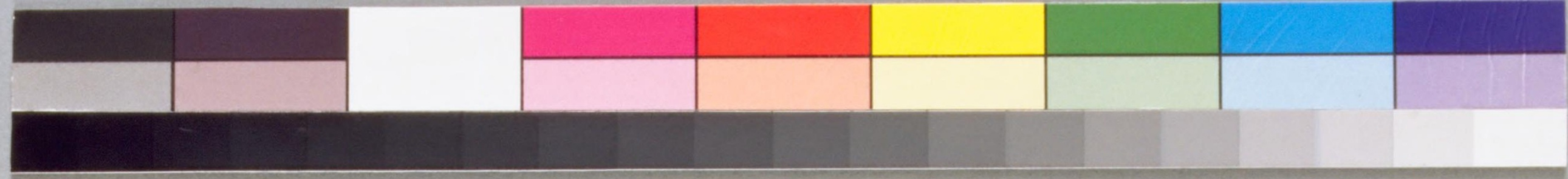
大正  
14. 2. 5  
購求

原才

心づきの秋風さしくる木立  
 月影うけながるは九妙  
 日向園乃老るを以てさ  
 大祿言よすひふる人福よ唯々  
 思ひ立了まひのよ其の小國の  
 浦船漕出くくは重の楳路を  
 是く此わかちて波乃淡路を

乃行上

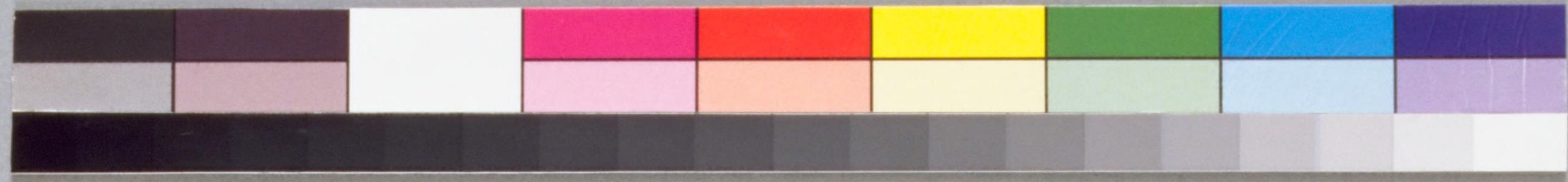




通ふ子香の聲やて様乃祇覺也  
 次磨乃浦濱にたともよ明音了  
 阿漚の浦よ着舟々わくゝ意人  
 祇よ是りや伴勢國阿漚の浦よ  
 恙了以形一見とソ也定思以以  
 波なつてほ寸後もたふ海を必  
 牙の秋心は定限らまう  
 う程

世を渡り習ひ歌一人に伝ら  
 せむやうを藏をいとあせ回夫  
 ともなすひかく海橋を救生能  
 家よ主神ありと神も能く救成  
 こ祇すり子り用いさよ傳了明  
 りとくは救生う解と付思ハ世  
 浮世のわきとて以程よとわも





又初小出之後早詩 以之小見介家

尉殿よたつて月トハ羨りけり

以解之乃事す之候、河事

少々りう早 伊勢國よとわたり

以浦茂を以りたるは空ト人う

以ん以以所をハあこま、浦と

トム早 以之冬承及たる河漕、

浦とて以以を候うや古き哥よ下カレ

伊勢の海河漕、浦よ以く綱也

度重なる科を歌まにくわが候ふ

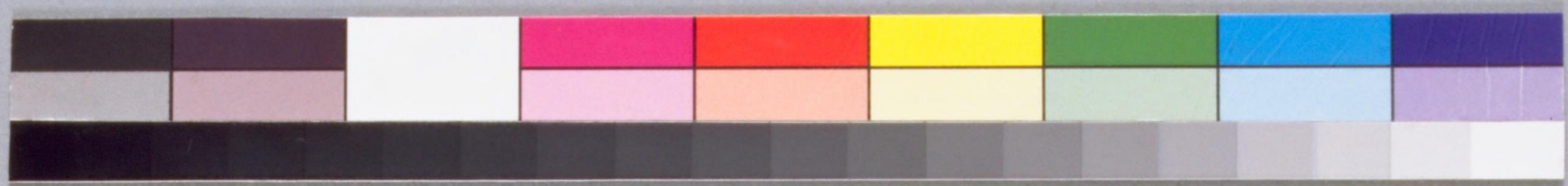
淡形一浦を候うや意面白也下カレ

あゝ金さゝ乃旅人也所の和哥早詩

かな程なかなる冬志つて了くま

ば古茶乃哥小あよりも河漕下カレ





浦よ引烟も度重なるそ歌道や  
 おせいの横に談社一漁人な程々  
 ともち紙なふ伴替水の満士に  
 ぐらめもかろきもな程々  
 心廊一足針ひんあよ  
 必所回法に到了年程ハ心な  
 蚤のたぐもおみ煙 外成毎く

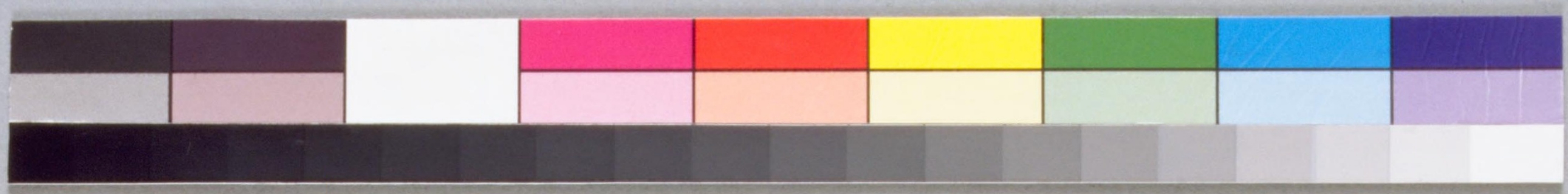
へきふえあ〜も〜  
 所あふ家はの 音もかける  
 外信へ 物乃必も所へわたり  
 おりるもくわ〜  
 備用もぎ〜よハ伊勢乃浪蕨志  
 をと成替てや路へ藤垣焼煙も  
 とハた〜ふ〜わ月見世〜





海士の志わさよと遊るさし神中  
 蛭衣のま時よよわく家人たよ小  
 づりて海へき 早瀬 浦を阿漕の  
 浦と尸ツ神傳物かづるをく  
 入三ノ浦まー了は浦茂あこき、浦と  
 尸を伴勢友神言は光信よを  
 こ乃ふくは照調逢の網をいく  
 所也さし神の傳物いよよ海  
 とも海邊乃字詠くはこ所所舟  
 多くあて海世を渡家あたりの  
 連人よはよはよとを成金むと  
 づんそ祿あ乃なる神をよよわ  
 望くいさうめそ是茂遊るさぬ  
 家よ阿漕と云蛭衣人養よ乃うそ

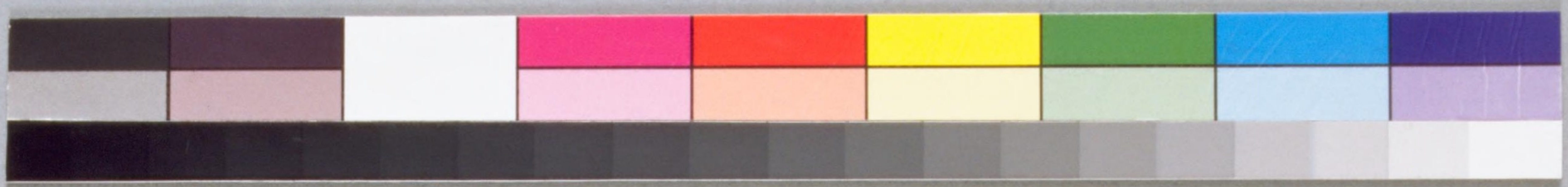




心乃也さるもあつく志乃ひて  
 あ三成ひく志り一人も志り  
 さるに度かてなれそ歌まて  
 何漕をいまりめ所を七替はま  
 浦の沖よ沈めくわさかふふ  
 伊勢た乃海をひ飛ふく養子を  
 とあ一欠の海をおもくそひて

おもき飛種をうくあやまの  
 名まきも 雲海くそひふり  
 おふぞも何こむうりや  
 何奏おをぬもほあてて昔思も  
 うひそなるはえ望ぬうさ  
 好ハヤシ流ーやんーハ  
 しん家もあまわくまあこま





うぶ必し〜のながふ世の  
 しくに録本に数はもわを東乃  
 ちちわ世母乃所傳。たとへ  
 うぶ必し〜乃わきし〜やう〜  
 手哥人の世ひ妻あこま〜  
 云々母も責一人よ度重なるそ  
 少〜ま 上 一きぬねい函具乃

ま不海〜な〜  
 浦波乃あし終なをき商値通か  
 浦波乃あし終なをき商値通か  
 一梅の舎とわをも他主流孫と  
 少物を傳もあ終世乃値通を  
 以〜松陰小〜小達たまん  
 墨衣 以もみ昔に梅燈をうめ  
 少〜や漁火の 上 影もほ乃り小





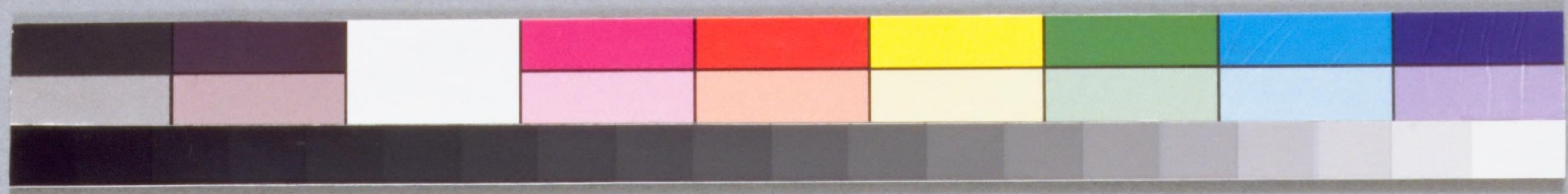




上巻  
 ありなむめ世代をいとり  
 け霞を以て波あまて清暎乃  
 勢法網いまこいひまこぬよなふ  
 詞  
 よき後ありと夕月な終をよひ  
 うわをくへ極のたををり海  
 人目を志乃ひくよいと網乃  
 沖も殿も船ハるくすた

わさ乃見えうあこみ海あこきり  
 塩木あわもとてな茂執心巻  
 網をく伊勢の海清な法乃  
 大百くもいふく香たよわ  
 法巻舞身よきけともしなを  
 心よきたは三を乃見えもち  
 あえみだこいへくは了猛火也





えーあこきーま浦よ新靴心乃  
 心ひく烟のなな新一字話月は  
 けそり人け了悪魚毒地定来く  
 別逢大紅逢の氷舟も茂つるめ  
 かををく多けえま々ふつきを  
 焦熱大焦熱の燃燈雲霧互居よ  
 ひ下もなふ空逢乃をぬもくひ

上  
 かろろや意あはたううや  
 まー見つし〜海も海の愛く  
 ぐよや因果能廻るく海火車小  
 葉清其教く海〜めく目能あ  
 地獄も海かろろ〜ばうろー乃  
 きーきやおも〜うり  
 心あー乃く嬰婆能必哉

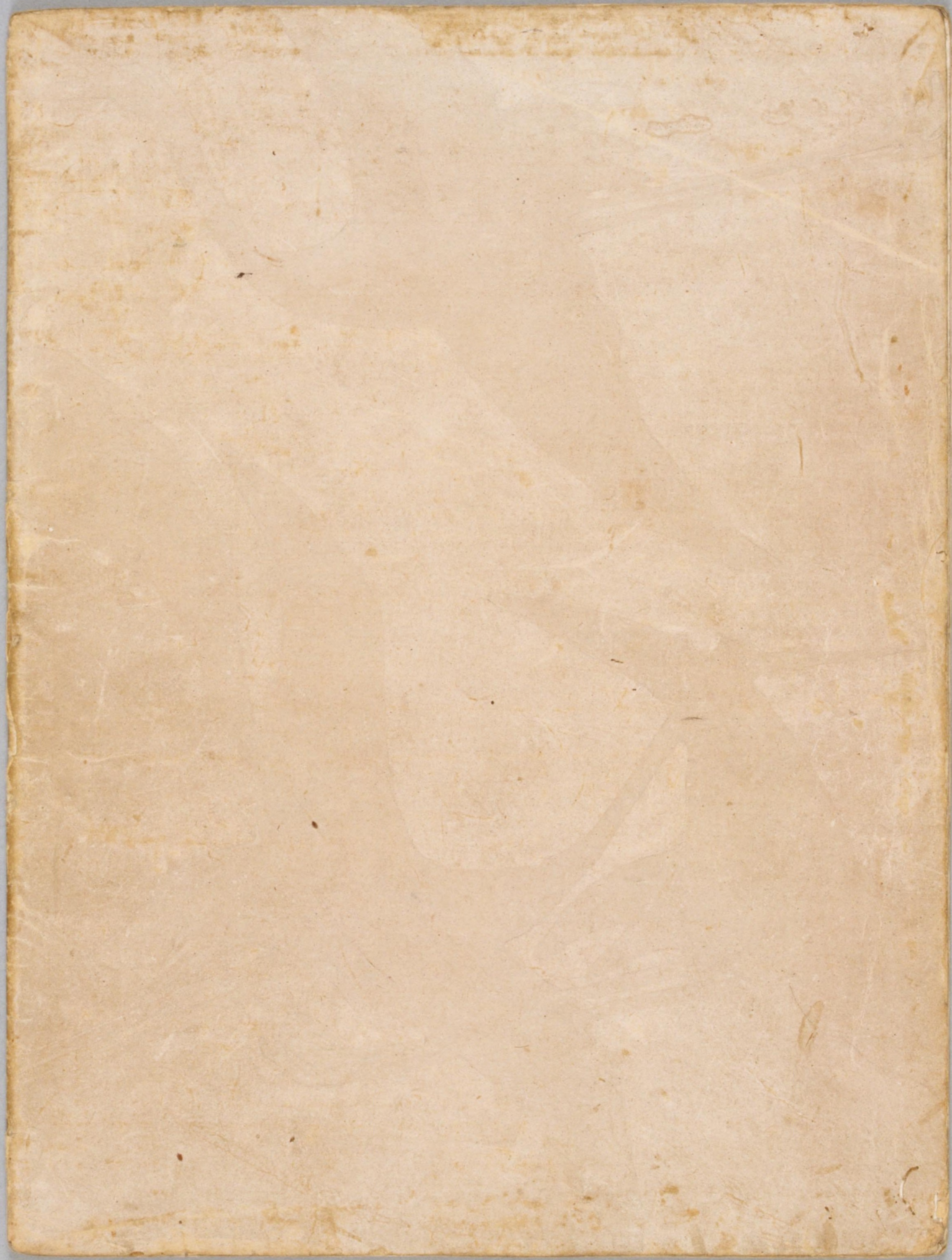




別子  
10

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百





安古木 1冊 WA7-35 00-013

国立国会図書館

